

「江戸エコ行楽重」を楽しむ「江戸城散策」

平日例会 2011年1月25日(火)

平日のウォークガイドは、「歴史と文化を訪ねるシリーズ」として、5km・2時間程度のゆったりとした行程と昼食をセットにした定員制のコースです。

今回は、旧江戸城をめぐる史跡と現皇居東御苑として一般公開されている本丸跡・二の丸跡を巡り、昼食は江戸時代の料理書を基にした低カロリーのお弁当「江戸エコ行楽重」を楽しむ「江戸城散策」を企画しました。80名の募集定員でしたが、最終的には98名のお客様の参加で、家康入城以来約280年に亘って繰り返りひろげられた江戸城にまつわる出来事に思いを馳せながらガイドと歩きました。



集合は、東京駅丸の内南口。広い東京駅ですので集合場所までのご案内は大切な仕事です。要所要所に案内のガイドが…当会の黄色い旗が目立ちます。



集合時間は10時でしたが、早い方は9時過ぎには…
14名のお客様で班編成を行い、和田倉門噴水公園へ向かいます。



和田倉門噴水公園では、参加者資料を配り、ガイドの紹介、一日のスケジュールや江戸城全体の説明を行います。

そしていよいよ江戸城へ登城です!



江戸城へは大手門から入城します。大手門を入ると、無料ですが入園票を渡されます。帰る時に返却しなければいけません。



百人番所は、本丸御殿最後の固めで、最大の検問所です。与力20騎と同心百人が配属されていました。その先が大手門の跡で、いよいよ本丸に入ります。





中雀門は御所院門とも言われ、本丸御殿に達する最後の門で、徳川御三家と言えどもここからは駕籠を降りて歩きました。
石垣には本丸が焼けたときに類焼した跡が生々しく残っています。



中雀門の先には本丸御殿跡の大芝生が広々と広がっています。
約1万1千坪の本丸御殿は、表・中奥・大奥からなる壮大で豪華な殿舎でした。大芝生の上を歩いて天守台に向かいます。



天守台の前に、富士見櫓と松の大廊下跡を…
富士見櫓は、江戸城本丸では現存する唯一の櫓で天守閣焼失の後には天守閣に代用されていました。
浅野内匠頭刃傷の松の大廊下は、本丸御殿にありました。



江戸城の天守閣は3回建てられましたが、明暦の大火で焼失した後は、天守台だけが築き直なおされましたが、天守閣は再建されていません。



桃華楽堂は、昭和41年に香淳皇后の還暦記念として建設された音楽堂です。
「桃華」の由来は、皇太后の誕生日が3月なので桃の節句にちなんで桃とし、華の字形は十が6個と一で構成されていることから還暦(数え年61才)を意味するということで命名されたそうです。



本丸と二の丸をつなぐ坂が梅林坂で、太田道灌が菅原道真を祀り、数百本の梅を植えたことに由来しますが、現在は約50本の紅白の梅が植えられています。





梅林坂から二の丸庭園へ向かう途中に「都道府県の木」の石碑があり、この場所に全国都道府県で指定されている木々が植えられています。二の丸庭園は、3代将軍家光の時代に小堀遠州が造ったといわれる庭園を復元したものです。



これで江戸城内部の散策は終わり、入園票を返して退城です。この後、お堀端を歩き二重橋に向かいます。



二重橋前は、東京見物の記念写真の定番です。手前に石橋、奥には鉄橋、その向こうに伏見櫓が見えます。私達もここで記念写真です。



井伊大老が水戸・薩摩藩浪士によって暗殺された「桜田門外の変」は、ここで起きました。一の門(高麗門)を入るとちょっとした広場のような空間で、その右手が渡り櫓門形式の二の門があります。ここは柵形という仕組みで、外から攻められた場合は内側の櫓門を閉めてしまい、敵が閉じ込められたところを、上から弓矢鉄砲で撃つようになっています。



江戸城散策の最後のガイドは、楠正成像です。この銅像の前にある楠公レストハウスで、待ちに待った昼食!! 昼食は、「江戸エコ行楽重」です。美味しかった!!という言葉を多くのお客様から頂きました。



江戸時代中期には、庶民の間でも花見や芝居などの娯楽が盛んになり、携行食として花見弁当や幕の内弁当といった行楽弁当が作られるようになりました。「江戸エコ行楽重」は、江戸時代の料理法と現代の食材が織りなす「江戸の味」を行楽弁当の形で再現したものです。



お客様が帰られた後、必ず反省会が行われます。良かった点、悪かった点等々意見を交わします。それが次回につながる会の財産となっていきます。